

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「基調としては緩やかな拡大を続けているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響に拡がりが見られている」と判断しています。感染症拡大の影響からインバウンド消費は減少していますが、足もとでは、感染症拡大の懸念による外出控えなどから、当地の個人消費にも影響が広がっています。輸出と生産は、弱めの動きが見られています。景気判断のポイントは以下の3点です。

第一に、インバウンド消費についてです。当地を訪れる中国便が大幅に欠航となる状況が続くなかで、国際線全体でも欠航の拡がりが見られており、免税売上は減少幅が拡大し、ホテル稼働率も低下しているとの声が聞かれています。インバウンド消費は、目先、弱めの動きが続くと見込まれますが、問題の終息に至る過程など、インバウンド消費の動向については、今後とも、よくみていきたいと思えます。

第二に、個人消費についてです。個人消費は、基調としては緩やかに増加しているものの、足もとでは、感染症拡大を懸念した外出控えなどから、外食や旅行のキャンセルの動きに拡がりが見られ、百貨店では幅広い品目で売上が減少しています。スーパー等では食料品や一部日用品の売上が増加しているとの声も聞かれています。外出控えが長引くことなどにより、消費の増加基調に変化が見られないか、よくみていきたいと思えます。

第三に、輸出・生産および設備投資についてです。ITサイクルの好転なども背景に、海外需要は増加基調に復していくものとみえますが、新型コロナウイルス感染症の影響など、海外経済を巡る不確実性は大きい状況です。感染症拡大による輸出・生産面への影響については、中国における稼働再開の遅れや、物流面の停滞などの影響が一部で聞かれています。この点、当地企業は、国内在庫での対応や、中国以外から部材調達を行うなどの対応を進めていますが、問題が長期化すれば、中国の経済活動の抑制などによる輸出・生産への影響も考えられることから、その動向については、よくみていきたいと思えます。この間、設備投資は、研究開発を含め、企業の積極的な投資スタンスが維持されているとみえますが、海外経済を巡る不確実性や感染症の拡大が、そうした姿勢に影響を及ぼさないか、よくみていきたいと思えます。

先行きのリスク要因としては、新型コロナウイルス感染症の動向とその影響、中国を始めとする新興国・資源国経済の動向、グローバルなIT関連財需要の動向、国際金融市場の動向などに加え、それらが企業や家計のマインドに与える影響にも注視していく必要があります。

以上